

令和6年度 第3回 北浜中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月13日（木） 13:30 から 15:30
- 2 開催場所 北浜中学校 会議室
- 3 出席委員 古川員巳、柴田義久、大村 仁、藤本正俊、大岡成光
齋藤千朝、原崎佳久、古谷一平
- 4 欠席委員 波多信広
- 5 オブザーバー 鈴木雄介（北浜南部協働センター職員）
- 6 学 校 岡田芳樹（校長）水谷裕士（教頭）、鈴木 亮（CS 担当）
鈴木敬子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 井島健蔵（教育総務課）
- 8 傍 聴 者 竹内真哉
- 9 会議録作成者 CSディレクター 鈴木敬子
- 10 議長の選出
司会から議長の選出について意見を求めたところ、会長から柴田委員が推薦され、全員異議なくこれを承認した。
- 11 協議事項
 - （1）学校関係者評価について
 - （2）来年度の学校運営協議会の基本方針について
 - （3）学校運営協議会の自己評価と来年度の目標について
- 12 会議記録
司会の柴田委員から、委員総数9名のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
 - （1）学校関係者評価について（鈴木亮主幹教諭）

授業改善…高評価だが、テストの日程や範囲が分かりにくいとの意見があるので発信方法について考えたい。

集団改善…心の天気アンケートやハッピーデー（今年はエンカウンター）の取組の良い現れ。保護者にも丁寧な対応をしている。

環境改善…リーディングDX、月一回の情報モラル講座の成果あり。教室整備等環境の改善について検討が必要である。

連携改善…ボランティアの参加者が増えている。情報発信の重要性。保護者の学校行事等への関心が高くありがたい。
 - ・ いじめ防止のための取組について
本年度の様子、対応（心の天気アンケート、ハッピーデー、校内いじめ対策委員会等）。来年度のいじめ防止対策基本方針については現在策定中である。

・ 7月と12月を比べて集団改善の生徒のポイントが高くなっているのは意図しているのか？日々の結果なのか？（大岡委員）

→7月と12月が違っているのは、付き合った時間によって関係が構築されて違って来たのではないかと。担任だけでなく学年もチームとして関わるようになってきている。皆で子供たちを見ている。（校長）

・ 時間を掛けた関りが大切であることがわかる。（大岡委員）

・ 「ハッピーデー」とは具体的には？（大村委員）

→以前から本校で取り入れている人間関係を作るプログラム（リフレーミング等）で、3年間で一周するようになってきている。（校長）

・ いじめの報告件数は市内で多いのか少ないのか？（古川委員）

→本校では、いじめについて心配して言ってくれる子供が多いと思う。大人も、自分の子のことだけでなく報告してくれている。（校長）

・ 件数云々でなく先生方が全体でみてくれること、教員の結束力と地域のまとまりが重要だと思う。（古川委員）

・ 昔は友だちをかばうこともあったが、先生方が大ごととして捉えてくれていることが大きく抑止力になっている。（原崎委員）

・ 保護者アンケートの1～3については、保護者が授業を見る機会が多いと違ってくるのではないかと。（原崎委員）

→いじめに関しては、保護者との関係が不可欠。親の思いが子供を飛び越える場合もある。学校だけでは苦しいので、地域も含めて一緒に考えて対策したい。

・ ボランティアの件では、今年度は参加者が増えている。子供たちは自分が関わって喜んでもらえるのが嬉しい。協働センター等、周りから紹介がありがたい。外に行って役に立つ経験が大事。（校長）

・ 子供たちはいじめを受けたり見た時にどう対応しているか？教えてあるか？（斎藤委員）

→子供たちは方法について知っている。子供たちはいじめが良くない事と思っているので、報告してくる子も多い。外部の相談窓口で電話をする子もある。中学生の年頃は難しいので、「守る」とはどうあるべきか考えたい。（校長）

（2）来年度の学校運営協議会の基本方針について（校長）

・ グランドデザイン・学校経営構想・年間計画

「魅力ある教育活動・学校の働き方改革」を経営の基盤としたい。校務のDX化等を進め時間外の負担を減らし、より良い授業を目指したい。リーディングDXの活用、どうやったら子供たちが学

びやすいか。個別も他者との関りも可能な先端的授業を進め整えたい。若い先生と経験値の高い先生がタブレットを使った授業を進める中で、若手のスキルと先輩教員の経験を相互に与えられる雰囲気がある。たくさんの人を巻き込んで魅力ある授業にしていきたい。

「部活動」は令和8年の9月からは土日休日には教員は不参加となる。保護者が主となるが、指導者がいないと目的を持った活動が難しそうなので市教委に申請して外部コーチも入れながらになると思う。来年度には具体的な方針が出る。ただ子供たちの数が減ってくるので、浜北地区の中で合同チームについて模索中である。学校単位での活動が難しくなってくる（既に野球部や柔道部では合同で練習等している、剣道については元々外部団体がある）。浜北地区の中学校5校は足並みを揃えたいと協議中である。来年度入学式が終わり次第保護者に今後について通知予定である。

- ・中学生が保育園に来てくれて園では大変喜んでいて。ボランティアの大切さをアピールして、いろいろなところに出ていく事も大事ではないか。経験を積ませてほしい。学校体制の中で地域社会参加を前面に出して活動を増やしてほしい。（古川委員）
- ・保護者のボランティアも広げていくのか？（斎藤委員）
- 小学校と同じような支援ではない。中学生に合った支援のアイデアが欲しい。子供たちのボランティアでは、なるべく多くの教員以外の大人と関わって欲しい。（校長）
- ・地域の自治会では、祭りや防災面で中学生の関りが欲しい。また、高齢者の面倒をみる組織ができていないので、地元で中学生も含めてみんなが集って分担して活動したい。（柴田委員）
- ・土日の地域活動に中学生が来れないのは部活動のためである。高校生や大学生は更に離れる。部活動改革で変わってくるのではないか。

（大村委員）

- 中学生が防災等いろいろなところで役に立つ経験をするのは大切。子供の数が少なくなっているので部活動も変わっていくと思われる。（校長）
- ・地域に指導できる大人がいない。（大村委員）
- ・コロナで壊れた世代のつながり。地域の行事でも、その前の世代が主になって活動しているが高齢化が進んでいる。（柴田委員）
- ・コミュニティの作り直しが必要。ボランティアで地域貢献してい

くことが大切になる。(大村委員)

・地域活動が困難になってきている。(柴田委員)

・70歳まで働く時代になり、地域で活動するのが難しい状況になっている。仕事と地域貢献を同時進行しなければ。(古川委員)

→大学生で地域貢献したい子たちが増えているのは、良い傾向だと感じる。(校長)

・以前は浜北地区の健全育成会が機能していたので、その頃の子供たちは関心が高い。そういった地域に関心がある子たちの後が続かない気がする。(古川委員)

・社会全体の高齢化が進んでいる。(校長)

・部活動の試合や大会はどうなるのか？(大岡委員)

→平日の活動は4回から3回になる。中体連の大会は特例でなくさない方向。その他については話し合いの段階である。(校長)

・大会の引率はどうなるのか？(大岡委員)

→教員が指導するなら兼職兼業の届を出してということになる。土日にやるためには組織が必要になる。教員が指導したい希望があっても個々の事情もあるので考慮が必要になる。(校長)

・部活の種類によってもいろいろ違ってくると思う。(原崎委員)

(3) 学校運営協議会の自己評価と来年度の目標について(教頭)

資料で分かるように情報発信について課題が残る。来年度の目標についての委員と教員、委員同士の共有や連携が重要。

・来年度に生かしたい付け足し等はあるか。(柴田委員)

・職員もこういった話し合いの場にもっと参加させたい。(校長)

→子供たちをもっと地域に出したいという意見を聞いて、教員も変わると思う。(教頭)

→子供たちからの意見も取り入れていきたい。(校長)

・自分の子供が中学生の時に一人暮らしの老人を訪問したことがあったがそういうこともできないか？(斎藤委員)

・多分福祉の授業とかで行ったのではないか。(大村委員)

→そういう体制があれば取り組めるので、具体的に考えたい。

来年度は生徒をもっと地域に社会に出していきたい。(校長)

・今回の資料を参考にしてほしい。(柴田委員)

1.3 その他報告事項等

・報告 (1) 第3回会議録 (2) 体罰アンケート結果について

・連絡 (1) 令和7年度学校運営協議会委員推薦候補者について
(2) 夢育やらまいか事業について…未来授業等に活用

・オブザーバーより

「協働センター祭り」や「20歳の集い」等で中学生ボランティアが熱心に協力してくれて感謝している。来年度は、より一層の相互協力に努めていきたい。

・市教委より

「北中応援隊」の考えは素晴らしい。外に子供たちを出していきたい。社会に開かれた教育課程となるよう、コミュニティをどう作っていくか地域で中学生をどう使っていくか双方で考えていきたい。